研究主題　地図を活用し確かな考えをもつ社会科学習指導法の研究
副主題　作図の効果的な位置付けと工夫を通して～

第６学年　社会科学習指導案

指導者　警固小学校　６年　組

１．小単元名　　江戸幕府の政治と江戸時代を生きた人々

１．小単元の考え方

１）児童観

○関心・意欲・態度

本学級の児童は，１学期最後のアンケートによると，　　名中　　名の児童が社会科を好きだと答えている。また，地図を使った学習に対しては　　名の児童が好きだと答えている。１学期の学習では，歴史的事象について意欲的に調べ，文章で表現したり，発表したりできるようになっている。

○資料活用・表現・コミュニケーション能力

アンケートでは，　　名の児童が，「社会科の学習で地図または地図帳を使っている」と答えている。５年生までに地図を使った学習の内容としては，３年生での校区の地図づくり，４年生での福岡県の様子，５年生での日本の国土の様子，産業を主に覚えており，アンケートに多くの単元名が挙がっていた。また，６年生の１学期は，古墳や都の位置，鎌倉幕府の位置などを読み取り，そこから気がついたことやわかることを考えてきた。

しかし，「地図に色をぬったり調べたことを書き込んだりしていますか。」という問いには２０名の児童が「よくしている」「ときどきしている」と答えている。このことから，読図は様々な単元で行っているが，地図に色をぬったり書き込んだりする作業的な活動はあまりしていないと感じている児童がいることがわかる。

児童は，これまでの追究活動において，資料から調べたり，体験活動や見学，人物への聞き取りなどを通して調べたりしたことを発表することはできるようになっている。しかし，相手意識が十分でなく，自分の考えを通そうとするあまり，まず友達の意見を否定しようとする姿が見られる。

○知識・理解，社会的な見方・考え方

児童はこれまでに，鎌倉幕府や室町幕府が体制を維持するために様々な政策を行い，幕府の仕組みなどを工夫してきたことに気が付いている。また，前単元では，織田信長・豊臣秀吉・徳川家康が天下統一を進めていった様子や政策について調べ，戦国の世が統一されたことを理解している。

２）教材観

○こんな教材で

本単元は，新学習指導要領の目標「（１）国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに，我が国の歴史や伝統を大切にし，国を愛する心情を育てるようにする。」に関わる学習である。

新学習指導要領の内容（１）のオには，「キリスト教の伝来，織田・豊臣の天下統一，江戸幕府の始まり，参勤交代，鎖国について調べ，戦国の世が統一され，身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること。」とある。つまり，この小単元では，参勤交代や鎖国を中心に調べ，徳川家康や家光が,武家諸法度や慶安の御触書に代表される大名統制や農民統制などの政策を行い，武士を中心とする身分制度や鎖国政策を打ち出すことで，政治体制の安定を図っていったことがわかることをねらいとしている。

本小単元では，大名配置，参勤交代の道筋，朝鮮通信史の行路の３つの地図が学習の中で活用できると考えた。特に，大名配置と参勤交代の道筋は，地図に表して２つの事象の関係を考えさせることで，児童は「江戸幕府が，参勤交代に代表される武家諸法度や大名配置を考えたりして大名統制を行っていた」ことをとらえることができると考える。

○単元構成図

徳川家光は，大名をきびしく支配し，身分のちがいをはっきり決めることで武士による支配を維持していった。また，鎖国をすることで，幕府の支配のしくみを固めて政治を行った。そのことにより政治が安定し，江戸幕府は 264 年間も続いた。

江戸幕府の政治		
【武士に対する政策】 ○大名配置 ・親藩 ・譜代・外様の配置 ・将軍による改易・転封の自由 ○武家諸法度 ・参勤交代 ・無断婚姻禁止 ・居城の修理や新造の禁止 等	【農民（百姓）等に対する政策】 ○慶安の御触書 ・仕事の奨励 ・飲食の倹約 ・着物の倹約 ○身分制度 ・武士，百姓，町人，百姓や町人からも差別された人々 ・支配されても差別されても一生懸命生きる人々 ○農業技術の進歩，新田開発 ○米以外の商品作物，職人の加工技術，各地の特産物 ※百姓…村に住み，農業や林業などのいろいろな仕事に就いた人々	【外国との関係】 ○キリスト教の禁止 ・外国との貿易に力をいれた家康 ・キリスト教信者が増え，勢力が大きくなることを恐れた幕府がキリスト教を禁止 ・島原・天草の一揆 ○鎖国 ・日本人が外国に行くことを禁止 ○鎖国下での貿易 ・幕府だけが，清とオランダの商人だけと長崎の出島で貿易

３）指導観

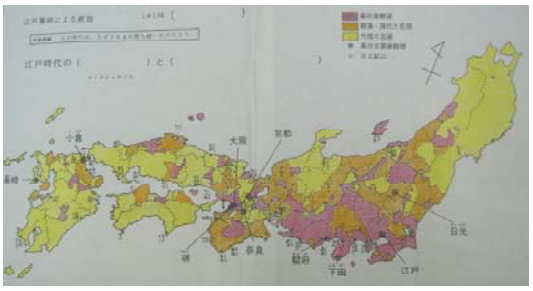
○　新学習指導要領では，小学校，中学校ともに，知識や技能を習得させるために作業的，体験的な学習を取り入れた問題解決学習の必要性を示している。また，平成２０年度の福岡市「学力実態調査を踏まえた授業改善の手引き」の授業改善のポイントには，「地図を活用して調べる活動の充実」が挙げられている。さらに，昨年度の研究の課題では，地図の読図を中心とした学習を行ったが，地図を見て読み取るだけでは，教師が意図した内容を十分に理解したり，考えをもったりすることができない児童もいた。

そこで，本研究では，地図を活用した作業的な活動に焦点をあてて学習を組んでいくこととする。児童は，**地図に作図や描図をすることで事実を正確にとらえ，自分の考えの根拠とすることができ，確かな考えをもつことができる**と考える。

研究内容①描図や作図の効果的な位置付け

○　本小単元では，確かな考えをもつために，作図や描図をさぐる段階に位置付ける。さぐる段階では，追究の視点に沿った作図を行っていく。

６年生のめざす子どもの姿としては，「地図を使い分けて，より広い視野で社会的事象の意味を読み取ったり，かいたりする」ことを目標としている。本来なら，自分の追究の視点に沿って児童それぞれで地図等の資料を用いて調べ学習をしていくところである。しかし，今回の学習問題「江戸幕府は，なぜ 264 年間も続いたのだろう。」に対して，①大名統制，②農民統制，③外国政策の３つの追究の視点のうち，大名統制についてはほとんどの児童が追究の視点としてもっている。また，**本小単元では，参勤交代と大名配置につながりがあることに気付かせ，江戸幕府が緻密に大名統制を行って支配していたことを具体的，実感的にとらえさせたい。その方法として，作図を通して考えさせる活動をさぐる段階に位置づけている。**

学習過程	描図や作図の位置づけ	作図や描図の活動 （何のために・どんな地図を・どのように）
さぐる	追究の視点に沿って具体的に追究するための作図・描図する活動	【何のために】 ○幕府が，大名に参勤交代をさせる際，大坂からは陸路を通らせ，親藩や譜代の領地を通らせたことへ気付かせるために， 【どんな地図を・どのように】 ○大名配置を色分けした地図の上に，参勤交代で通った地名が書いてある資料をもとにして黒田藩の参勤交代の道筋を作図し，大名配置と参勤交代の経路に関係性がないかを考えさせ，考えを交流する。 

研究内容②作図や描図の作り方と活用の工夫

【さぐる段階　１時間目】

今回は，全員で追究の視点①の大名統制から追究活動をしていくこととする。まず，教師から大名配置図を配布し，児童は，大名が親藩（将軍家の親族），譜代（関ヶ原の戦い以前から徳川家に仕えていた家とその分家），外様（関ヶ原後に徳川家に臣従した家とその分家）に分けられていたこと，そして，これらの大名がそれぞれの藩を統治し，幕府が大名を配置して統制する二重構造であったことを知る。このことを知った上で，大名配置図に大名の種類別に色分けする活動を行い，読図させる。そこから，江戸の周囲や軍事・交通の要所には親藩や譜代が置かれ，幕府が直接治めていること，外様は江戸から離れたところに置かれていることに気付かせる。このことから，幕府が大名配置も考えて統制を行っていたことをとらえさせたい。

次に，大名統制の一つとして参勤交代という政策があったことを知る。参勤交代の意図や大名配置と参勤交代のつながりに気付かせるため，まず，黒田藩の参勤交代の道筋を予想してかく活動を行う。予想する際には，参勤交代の想像図の資料をもとに，黒田藩が参勤交代で連れていく人数や持っていく道具等を知らせておき，「あなたが黒田長政だったら，どこを通るか」という視点で描かせる。陸路の考えがある児童は多いと思うが，海路の考えをもつ児童は少ないと考えられる。そこで，教師から「何を使って，どうやっていくことが考えられますか。」という発問をし，海路の可能性があることも気付かせておきたい。また，この活動では，なぜその道筋を通ったと考えたのかという予想の根拠をしっかりもたせ，地図の余白に書かせておく。

【さぐる段階　２時間目(本時)】

○作図の作り方

１．目的（黒田藩が参勤交代で実際に通った道筋をかくこと）を明確にする。
２．必要情報（福岡から江戸までの通った地名）を与える。
３．地名と地名を線で結ぶ。
４．地図から読み取れる特徴を考え，地図にかき込む。

さぐる段階の２時間目では，予想とその根拠の発表から入る。予想を発表した後に，黒田藩が参勤交代で実際に通った日にちと地名が書いてある資料を提示し，予想を描いていた地図に，地名をたどりながら道筋を作図（※注釈）させる。

※作図…目的をもって統計等の情報を抽出して地図上に表すこと

○作図した地図の活用の工夫

作図が終わり，考えさせる場面で，点，線，面を意識した発問を行う。

「地名を表した点と点を結んでいきましたね。黒田藩が通った道筋（線）と大名配置（面）には，何か関係がありそうですか。」

この質問により，黒田藩が通った道筋と大名配置との関係を意識して考えることができ，幕府の大名支配が参勤交代の道筋にも表れていることに気付くことができると考える。

３．単元目標

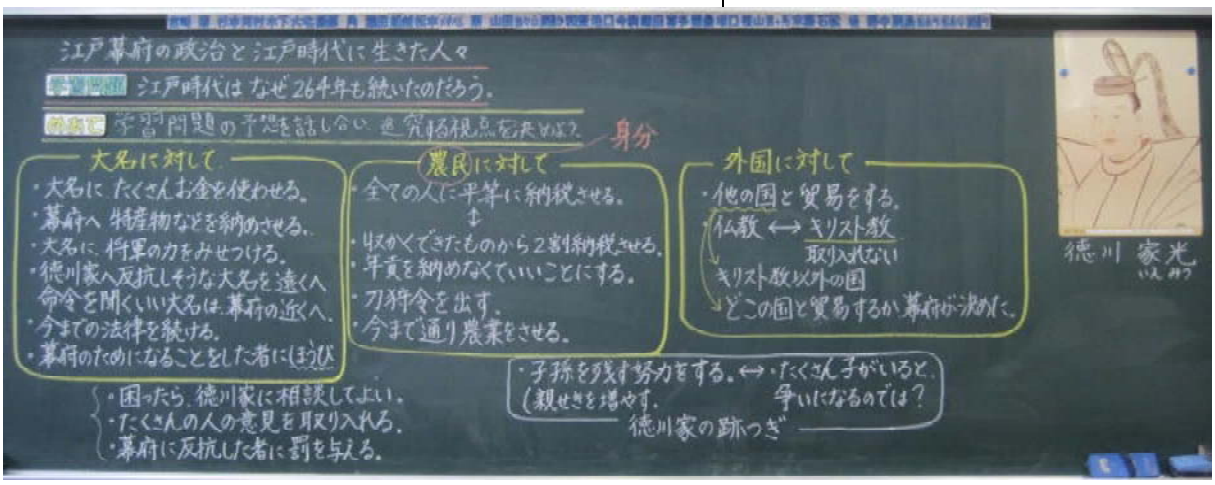
○ 徳川家康，家光のおこなった政治や江戸時代を生きた人々の願いや工夫や努力について関心をもち，意欲的に追究することができる。（関心・意欲・態度）

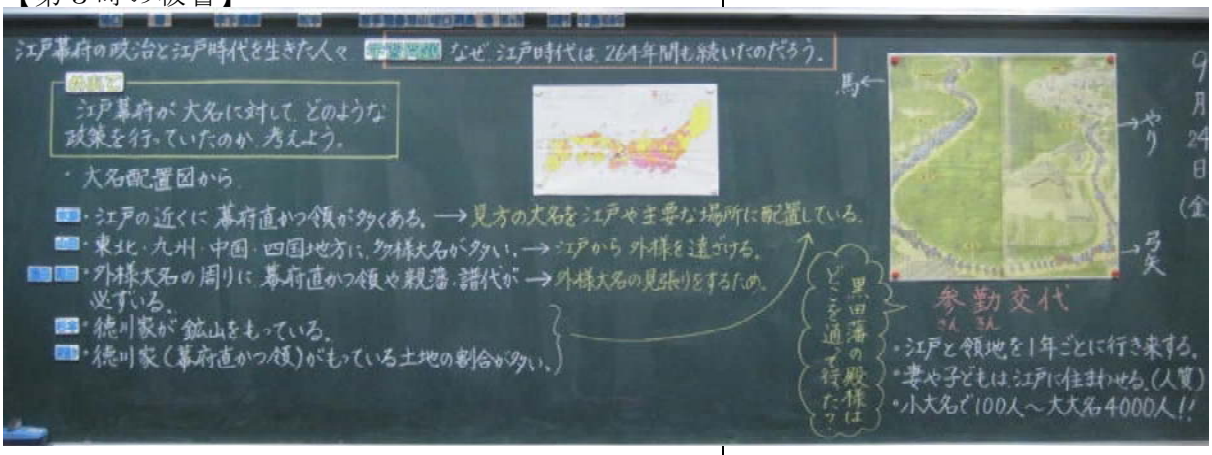
○ 江戸幕府の政治や人々のくらしについて考え，大名支配や身分の違いに問題意識をもち，それらについて追究したことをもとに，江戸時代の政治や人々のくらしについて適切に判断している。（思考・判断）

○ 参勤交代や大名配置について地図をもとに調べ，白地図に作図することで，江戸幕府の大名を抑える仕組みについて気付き，江戸幕府の政治の仕組みの一つを理解することができる。また，資料をもとに，鎖国や身分制度等の幕府の行った政治，人々のくらしについて調べ，調べたことを分かりやすく表現することができる。（技能・表現）

○ 江戸幕府が，武家諸法度や慶安の御触書に代表される大名統制や農民統制などの政策を行い，身分制度や鎖国政策を打ち出すことで，武士による政治が安定したことを理解することができる。（知識・理解）

４．指導計画（全７時間）

段階	配時	学習活動と内容	教師の支援
つかむ	2 (1)	１．年表から学習問題をつくる。 （１）年表をもとに安土・桃山時代を振り返る。 （２）安土・桃山時代と江戸時代の年表を比較し，学習問題を作る。 ・安土・桃山時代は３０年，江戸時代は２６４年も続いているよ。 学習問題 江戸時代は，なぜ264年間も続いたのだろう。	○年表をもとに安土・桃山時代の振り返りをし，織田信長や豊臣秀吉が様々な政策を行っていたことを想起させる。さらに，安土・桃山時代と江戸時代の長さを比較させ，江戸時代が264年間も続いていることに気付かせ，どんな政治を行っていたのかを考えさせる。
		２．学習問題の答えを予想し、追究の視点を考える。 （１）もし自分が家光だったら，どんな政治を行うかを予想する。 ・信長や秀吉の政策を真似したんんじゃないかな。 ・新しい政治の仕組みをつくったと思うよ。 ・農民には収穫できたものから２割を納税させたと思う。 ・キリスト教が入ってくるから，外国とは貿易しなかったんじゃないかな。	○どんな制度をつくったのか，できるだけ具体的に予想できるように安土・桃山時代を振り返らせておく。
	(1)	（２）予想を交流し、追究の視点を考える。 ○ 追究の視点 ・江戸幕府の政策(特に家光)…大名統制 ・人々のくらし…農民統制 ・外国との関係…鎖国政策 【第２時の板書】	
	2		

さぐる	(1)	**3．追究の視点「大名統制」の中の大名配置と参勤交代について調べて，まとめる。** （1）江戸幕府が，大名を親藩・譜代・外様に分けて，領地を与えていたことを知る。 （2）大名配置地図に示されている親藩・譜代・外様大名の位置に注目して，幕府がどのような配置をしていたのかを考え，話し合う。 **（3）黒田藩が参勤交代で通った道筋を予想して地図に描き入れる。** 【第３時の板書】  	
	(1) 本 時	**（4）予想を発表し，資料をもとに，実際に通った道筋を作図して考え，プリントに書く。** **（5）話し合い，まとめる。** ○班の友達と，自分の考えを伝え合う。 ○全体交流（代表児童の表現物を提示）。 ・幕府は，親藩や譜代の治める藩を通らせて，大名が反乱を起こさないように見張りをさせていた。 ○参勤交代と武家諸法度について知る。 ○「大名統制」について，まとめる。	**○予想の根拠を明確にさせ，地図の余白に書かせておく。** **○参勤交代の日にちと地名が書いてある資料を提示する。** ○児童の予想した地図は，プロジェクターで映しだし，全体へ提示する。 ○参勤交代が武家諸法度の一部であることを知らせ，武家諸法度にはどのような決まりがあったのかを知らせる。
	2 (1)	5．その他の追究の視点について調べ，まとめる。 ○教科書，よいこの社会科，資料集等で調べる。 ・人々のくらし…農民統制 ・朝鮮通信使 ・慶安の御触書 ・身分制度 ・外国との関係…鎖国政策 ・鎖国 ・朝鮮通信使	
	(1)	6．プリントにまとめたことをもとに，学習問題の答えについて話し合う。 （1）全体交流を行う。 （2）学習問題の答えをまとめる。 徳川家光は，大名をきびしく支配し，身分のちがいをはっきり決めることで武士による支配を維持していった。また，鎖国をすることで，幕府の支配のしくみを固めて政治を行ったので，江戸幕府は264年間も続いた。	

５．本時　　（4/7時間）　　於　６年　組教室

６．本時の目標

○ 黒田藩が実際に通った参勤交代の道筋を，提示された資料をもとに地図へ作図することができ，自分の考えを書くことができる。（技能・表現）

○ 作図した地図をもとに，大名配置と参勤交代の道筋の関係について自分の考えをまとめることができる。（思考・判断）

７．本時指導の考え方

大名配置と参勤交代の道筋がつながっていなかった子ども達が，大名配置図に黒田藩が実際に通った道筋を作図させ，気が付いたことや考えたことを話し合わせることで，大名配置と参勤交代の道筋のつながりに気付き，幕府が緻密に大名統制を行っていたと考えることができるだろう。

○前時までに…

児童は前時までに，追究の視点「大名政策」の中の大名配置について，大名配置図をもとに，どこにどんな大名が配置されていたのかについて学習している。さらにその地図に，黒田藩が参勤交代で通った道筋を予想して地図にかき込み，その根拠になる理由も書いている。

○本時は…

本時はまず，児童は前時までの学習の振り返りをして，本時のめあてをつかませる。そして，自分の予想した参勤交代の道筋について，予想とその根拠を発表させる。予想の中には，「はやいから」という理由で陸路の最短コースを描いている児童や「船で行けば速いし，宿泊費などもかからない」という理由で海路コースを描いている児童もいる。しかし，「親藩や譜代の治める藩を通らせて，大名が反乱を起こさないように見張りをさせていた」という幕府側の大名統制での視点をもって道筋を予想している児童はいない。ただし，親藩や譜代，幕府直轄領を避けた陸路をかいている児童がいたり，黒田藩は外様大名で他の藩から見張られているからと海路を考えたりしている児童もいる。この２人については大名配置と関連させて道筋を予想することができているので，予想を発表させることで，全体の児童に大名配置の視点があることに気付かせたい。

予想を発表させた後に，**黒田藩が実際に通った参勤交代の道筋を，予想を描いていた地図に作図させる。教師が提示する資料には，参勤交代で通った日にちと地名が明示してあり，児童が予想を描いていた地図にも同じ地名が書いてあるので,児童はそれをポイントにして作図するようにする。**作図がスムーズに進んでない児童には，机間指導で支援していく。

作図が終わったら,「黒田藩が通った道筋（線）と大名配置（面）には，何か関係がありそうですか。」という発問をして，気が付いたことや考えたことをプリントに書かせる。その際に，教師は児童の考えを把握し，どの児童を指名するのか順番を決めておく。

考えを出し合う際には，プロジェクターで黒田藩の通った道筋を黒板に提示しておく。発表する際には，教師が決めていた順番で，挙手した児童に指名していく。そして，「親藩や譜代の治める藩を通らせて，大名の見張りをさせていた」という幕府側の大名統制での視点が出たところで，全体で確認し，実は幕府が参勤交代で通る道筋にも指示を出していたことを教師から伝える。さらに，教師側から，地図には載っていなかった参勤交代についての資料(大名たちが１年おきに江戸に滞在しなければならなかったこと・妻や子を江戸に住まわせなければならなかったこと・参勤交代をすることで江戸の文化が全国各地へ伝わったこと等)を提示する。続けて，武家諸法度の資料を提示し，幕府が大名や武士に対する決まりを出して統制を行っており，参勤交代も武家諸法度の一つであることを知らせる。最後に，「江戸幕府は，大名に対して参勤交代に代表される武家諸法度や大名配置を考えた政策を行い，厳しく支配していた。」というようなまとめに近づけたい。

８．本時の展開

配時	学習活動と内容	分析細目	指導上の留意点
2分	１．前時の想起とめあての確認 めあて 黒田藩の参勤交代の道筋をかき，幕府が大名に対してどのような政策を行っていたのか考えよう。		
30分 (6)	２．予想を発表し，実際に通った地図をもとに作図して気づいたことを話し合う。 （１）黒田藩が通った江戸までの参勤交代の道筋の予想と根拠を、地図を指示しながら発表する。		
(14)	（２）資料をもとに，実際に黒田藩が通った道筋を作図し，気付いたことをプリントに書く。	【分析細目１】 ○提示した資料は，作図させるのに有効であったか。 【分析細目２】 ○発問「黒田藩が通った道筋（線）と大名配置（面）には，何か関係がありそうですか。」は，２つの関係に気付かせる上で有効であったか。 【分析細目３】 ○大名配置図に参勤交代の道筋を作図させたことは，２つの関係性を考えさせる上で有効であったか。	○提示する資料 「黒田藩の参勤交代の行程（日にちと地名が書いてある）」 ○発問「黒田藩が通った道筋（線）と大名配置（面）には，何か関係がありそうですか。」
(10)	（３）考えたことを話し合う。 ○友達と，自分の考えを伝え合う。 ○全体交流 ・幕府は，親藩や譜代の治める藩を通らせて，大名の見張りをさせていた。 ○教師からの参勤交代と武家諸法度についての話を聞く。 ・実は参勤交代の道まで，幕府が指示していたことを知らせる。（九州・四国の大名は，海路をとる場合は大坂以西の港を利用して上陸し，その後は陸路で江戸に向かうこと）		
5分	３．まとめる。 (1)全体でまとめる。 江戸幕府は，大名に対して参勤交代などの武家諸法度を定めたり，大名配置を考えた政策を行い，厳しく支配していた。		
8分	４．「今日の学習で」を書き，発表する。 ５．次時の予告		